

学校教育目標

かしこい子  
心ゆたかな子  
たくましい子

令和6年度12月号

児童数 399人



# 新開小だより

～太陽のように ひまわりのように～



「25% を褒める」

「どの子どもみんな一分の一」と「幸せづくり」



毎日更新!

校長 八代 剛

師走です。気が付けば、あっという間に2学期も終わりを迎え、年末年始に向けて準備が始まる時季となりました。あと17回登校すれば冬休みです。保護者の皆様におかれましては、2学期もたくさんのご協力をいただきありがとうございました。

さて、冬休み前となると気になるのが、子供たちにとっては通知表でしょうか。勉強ですから、得意不得意もあり、できる、できないということがあると思います。しかしながら、本来、人という生き物は、新しいことを学ぶことにわくわくし、新しいことができるようになるために何度も失敗しながら練習するものです。物心つく前の赤ちゃんは、一人で立って歩いたり、親と話をしたりすることに何度も何度もチャレンジします。それができたとき、大人は「〇〇ちゃんが、初めて〇〇できた!」と言って喜びます。また、うまく歩けない、うまく話せなくても、頑張っている様子を認め、応援しますよね。このことは、子供が大きくなって同じです。人は認められ褒められ成長する生き物です。

先日、市内の小学校の授業研究協議会に参加してきました。その時に、指導者の先生からこのようなお話をいただきました。「子供を褒めるときは、望ましい行動が完結してから褒めるのではなく、望ましい行動のきっかけの段階で褒めてください」と。床にごみが落ちていたとき、ごみをごみ箱に捨てることを見届けてから褒めるのではなく、ごみを発見した段階で、「よくごみに気付いたね。ありがとう」のように望ましい行動のきっかけの段階で褒めることが大切なのだそうです。

そのあと、大人と一緒にごみ箱にごみを捨てるなどすればよい、とおっしゃっていました。このことは、一般的に「25%ルール」と呼ばれています。物事を完結してから褒めると、成果や結果のみが大事になり、その結果により一喜一憂してしまうため、行動の入り口(過程)から褒めることが良いとの考えです。例えるなら、学校のテストです。テストに対して頑張らない子供は一人もいないと思います。でも頑張っても必ず成果が上がるとは言い切れません。ゆえに、結果だけに目を向けてしまうと失敗したときに立ち直れなくなったりひどく落ち込んだりすることもあるかもしれません。しかし、頑張っている経過をしっかり認め、褒め続ければ、うまく結果につながらなくても、また頑張ろうと思えるようになるのではないのでしょうか。

そのように考えると、前述した通知表で記したことは、あくまで結果となります。ぜひ、結果だけに固執せず、がんばったことやその過程を大切にして大いに認め励まし、褒めてください。今の教育界では「主体的に学ぶ力」が求められています。子供たちの主体性を育むため、これからも学校は子供たちの「やってみたい!」というチャレンジする気持ちと踏み出した一歩を大切にし、子供たちを25%の段階から全力で応援していきます。

## 【芸術鑑賞教室が開催されました!】

PTAのご協力により、芸術鑑賞教室が開催されました。子供たちになじみのある楽曲を、金管楽器や打楽器の紹介を含め行っていただきました。今後も本物に触れる機会を大切にしていきたいです。

